

平成 24 年度 しらとり 事業報告

I 概要

1) 利用者動向

母子生活支援施設入所 33 世帯の入所理由は、DV（配偶者・内縁関係者からの暴力）が 71%、住宅困窮が 11%、母子再統合 6%、その他（養育不安・困難、経済困窮等）12%だった。母子（父子）家庭緊急一時保護の入所理由全 5 件中、住宅困窮 4 件、DV が 1 件だった。ショートステイ利用理由全 44 件中、出産 36%、出張が 32%、親族の入院・介護が 27%、その他 5%だった。

2) 職員・育成

「母子生活支援施設運営指針」が示され、職員の役割・責任が明確になった。「運営規定」と合わせ今後より一層全職員の認識・理解の向上を図り、職員個々の専門力・対応力を高めていくことが求められている。

3) 平成 24 年度事業計画についての報告

「ほう・れん・そう」の徹底強化による円滑な情報共有を進めているが、まだ具体的な成果を出すには至っていない。担当間の連携、コミュニケーションを高め施設全体としてのレベルアップを引き続き目指していく。

4) 平成 24 年度重点の動き

制度変化の動きや利用者や相談内容の質的变化（DV被害、児童虐待、心身の障害などによる重篤な自立困難に陥っている世帯の増加など）に対応できる専門性の向上を目的に研修等を実施した。

II 事業別動向

区分	成 果	課 題
母子生活支援	母子生活支援施設の入所率の低下が深刻化している中、都内市部だけでなく区部の依頼を受けるなどの取り組みにより、安定した入所世帯数を維持した。	DV、虐待、障害など重篤化する課題への職員の対応力向上と連携強化。
緊急一時保護	週末（金～土・日）の利用が増える中、担当を中心に施設全体で対応し、サービス機能が向上した。	DV避難世帯に対するシェルター機能の強化。
センター	【ショート】他機関（市の担当課、たち等）の資源紹介により市内利用対象者の認知度は高まっている。 【ひろば】出張ひろばを緑苑にて施設間連携のもと実施。	ショート利用要件の見直し（虐待対応等）、ボランティアの育成。
事務	経理に関して、新会計基準へ移行し昨年度までの三会計が拠点として一元化され、業務効率が図られた。	修繕、改築財源積立のための長期計画立案・実行。
管理	【設備】経費節減に向けた照明設備のLED交換工事。 【人事】業務の適正化に向けた非常勤職員の積極的雇用	ヒヤリハットの共有、具体的対応に向けた取組。

III リスクマネジメント

1) 苦情・第三者評価

利用者への苦情対応（12 件）、利用者からの施設への苦情受付（1 件）。福祉サービス第三者評価受審。

2) 感染症等予防・蔓延防止の取組

利用対象者への手洗い・うがいの励行、手指消毒剤の設置、感染症予防のための内部研修の実施。

3) 緊急対応

土・日・祝祭日の職員体制の強化のための管理職・事業責任者の配置。

4) 防災

災害時事業継続計画の策定（「しらとりBCP」）、府中市自衛消防審査会参加（泉苑との合同隊）。

5) 勤務管理

各担当職員の適正な人員の配置と、担当間による拠点内連携の充実のためにシフトを整備した。